令和５年度　２月号　江戸川区立春江中学校　学校だより　　令和６年２月１日

春江中だより

【は】っけん･気付く　つなげ【る】【え】がおを創り出す

春江中学校教育目標

1　自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
2　規律を守り、責任を重んずる生徒
3　心身ともに健康で、思いやりのある生徒

「自助」のすすめ　～防災意識を高めよう～

校長　　横枕　耕史

新年の祝いの気分を一瞬にして吹き飛ばした能登半島地震から１ヶ月が過ぎました。この災害でお亡くなりなった方のご冥福をお祈りするとともに、生活基盤を失い苦しい避難生活をされている多くの被災者の方が幸せを取り戻せるようにと思いをはせ、被災地の１日でも早い復興を願うばかりです。

災害は、いつ、どこでやってくるかわかりません。明日は我が身と思い、よそ事・他人事とせず、防災意識を高く持つことが大切です。本校では、「自助・共助・公助」のあり方を含め、今住んでいる地域の実態に即して災害に対する知識や対応の仕方など防災教育を推進しています。有事の際、まず、自分の命は自分で守る「自助」を実践することを学び、中学生が避難者の立場だけはなく「共助」の部分で地域社会に貢献できるようにするために、江戸川区危機管理課・避難所開設委員、消防署、自衛隊、町会・自治会、PTA の方々に指導・支援していただき、毎年１年生を対象に防災教室を実施してきました。今後も地域で育つ中学生がいざというときに地域のために協力して働き活躍できる人材となるように育成しています。

生徒たちを含めすべての人が、人口が集中しているこの首都圏で大災害が発災したらどうなるのか想像力を働かせて、もしもに対する備えをしておく必要があります。いざという時のために、耐震・水害対策用品、備蓄品や避難用持出荷物の確認、何がどうなったら、どこへ、どの時点で避難するのかなど非常時の対応について家族で確認しておくことが重要です。

また、災害が起きた時に避難所に行けばなんとかなるとは限りません。発災直後の避難所になる学校には、自治体が配備した最小限の限られた備蓄品が保存されているだけです。そのため、避難所が支援物資の補給を受けながら本格的に動き出すまでは、被災した個人が自らの力で対応する「自助」が必須となります。電気・ガス・水道・下水道などライフラインが使えないことを想定し、自分で生き抜くための食料や生活必需品を用意しておく必要があるのです。

我が家の備蓄品では、３日分の水や食料、簡易トイレなどだけでしたが、１週間以上自力で生活できるように増強しようと考えています。１日一人３リットルの水、いつも食べている長期保存ができる食材、野菜ジュースやレトルト食品、インスタント食品、炭水化物に偏らないようにたんぱく質を含む缶詰やプロテイン食品、お菓子、お茶やコーヒーなどの嗜好品も加えて食品を多めに買い置きして、ローリングストック法※で定期的に新しいものに入れ替える計画です。また、簡易トイレ（凝固剤と袋）やトイレットペーパー、給水所で水をもらうための給水袋、カセットコンロとボンベ、大容量電源装置、液体歯磨きや感染症対策のマスクなどの生活必需品も準備しようと思います。

私たちは自分の目の前のことにとらわれがちですが、日本を越え世界中の災害や事故、戦争などにも目を向け、視点を変えながら物事を捉え、自分ばかりでなく利他のためにも何をどうすればよいのか思慮深く考え、様々な意味でサバイバルの準備をしておきましょう。

※　ローリングストック法とは、①備蓄保存する食料や日用品は少し多めに購入する。②定期的に食べたり使ったりする。③減った分だけ買い足す。④定期的に食べたり使ったりする。を繰り返して備蓄品が定期的に入れ替えできるようにする方法です。